

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510341

研究課題名(和文)女性の割礼・結婚・出産をめぐるライフコースの変容：東アフリカ牧畜社会の地域研究

研究課題名(英文)Alternative life courses among Samburu women: Changes in Circumcision, Marriage, and Childbearing

研究代表者

中村 香子 (Nakamura, Kyoko)

京都大学・総合地域研究ユニット・研究員

研究者番号：60467420

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：急激に変容するアフリカ社会における女性のライフコースの多様化の動態を東アフリカの牧畜民サンプルを事例に解明した。ライフコースの個別事例を収集し、世代ごとに分析した結果「スルメレイ(既割礼・未婚)」という、従来は特別な事情(身体・精神障害などのために結婚が遅れた等)のものに仕方なく選択されていたステータスをえらぶ女性が過去30年間に急増していることが明らかになった。人びとはスルメレイという既存の、しかし、例外的な年齢範疇のイメージや意味を変更しながら利用することで、「伝統的」な規範のもとでは逸脱とみられるような、未婚期の出産、恋愛結婚、生涯独身として生きるといった多様な選択を可能にしていた。

研究成果の概要(英文)：In this study I examined changing attitude for alternative life-course choices, particularly in terms of circumcision, marriage and childbearing of African pastoral women. When people cope with new situation brought by life course changes, they are not facing squarely to the conventional rules, but they create new ways of utilizing already existing system or add meanings to it in order to achieve traditionally "proper" status. Samburu people added new meanings to the already existing age category "surumelei(circumcised but unmarried)" and utilize it to become free from traditional rigid life course. In conventional Samburu values being a surumeleii is neither "right" nor "beautiful," but recently for many Samburu women being surumelehas become a positive option, and they use it to be free from conventional life course. They can take choice of childbearing instead of abortion, they can chose their partner by themselves or they can remain single all their lives.

研究分野：人類学、アフリカ地域研究

キーワード：女性のライフコースと教育 年齢範疇 未婚の母 恋愛結婚 模擬通過儀礼 連れ去り婚・略奪婚

1. 研究開始当初の背景

東アフリカの乾燥地帯には、世界的にもよく知られた「マサイ」をはじめとする多くの牧畜社会が存在している。これらの社会は、割礼や結婚などによって人びとの人生をいくつかの段階に分け(たとえば「少年」「戦士」「長老」)段階ごとに固有の役割や行動規範を与え社会システムを発達させてきた。これは一般的に「年齢体系」と総称され、数多くの人類的な研究の蓄積がある。こうした研究の多くは、「長老制」や「家父長制」にもとづき、社会を男性中心に描いてきただけでなく、複雑な規範の詳述に重点をおいてきたために、ある段階に属する人びとは誰もが規範通りの行動をとるかのような静態的な記述が中心だった(たとえば Spencer 1960)。しかしながら従来の研究では、現代社会の急速な変化に人びとがいかに対応しているのかという事態を的確に把握することができないという批判と自省にもとづいて、近年では、人びとの生活のダイナミックな変容を記述・分析する研究や(たとえば Holtzman 2009)女性の社会的地位に注目する研究も増えてきた(たとえば Kawai 1998, Straight 2000)。しかし、男性と女性のライフコースの変容を、相互に深く関連する現象として、双方向から分析するアプローチはいまだになされていない。

また、東アフリカ牧畜社会に限らず、アフリカ女性がどのようなライフコースをたどるのかに関しては、「伝統」か「近代」かといった二者択一的で単純な議論が主流をなしてきた。サンプル社会では従来、未割礼の女性が出産することは重大なタブー・侵犯であり、女性は結婚の前日に割礼を受けるため、「既婚 = 既割礼」「未婚 = 未割礼」という明確な対照が存在していた。しかしながら近年では、学校教育を受けた女性を中心に、結婚が決まらなくても割礼を済ませる女性が増加し、未婚で出産する女性や恋愛相手と結婚をする女性が登場している。すなわち『「伝統的」規範とその逸脱』といった従来の見方では捉えきれない多様かつ複雑なライフコースが出現し、教育を受けていない女性にも広がり始めているのだが、こうした事態は十分に研究されてはいない。

2. 研究の目的

本研究は、現代アフリカを生きる女性たちが新たなライフコース(=どんな人生をいかに生きるか)をどのように創出・選択しているのかを明らかにすることを目的に実施した。女性たちをとりまく社会環境は、近年急激に変化している。「伝統的」といわれてきたケニアの牧畜民サンプルの社会においても、学校教育やさまざまな開発プロジェクトが実施されており、人びとの価値観は変容のさなかにある。一夫多妻や女子割礼、未婚の母の禁止、親によって決定される結婚、若年結婚などといった既存のやり方に抗して、新

しい選択肢をダイナミックに創出し、主体的な人生を歩もうとする人びとが増加している。本研究では、とくに割礼と結婚、出産をめぐる実践に注目しながら、女性の新たな人生選択を男性のそれとの関連において記述・分析し、社会全体の変容のなかに位置づけて考察することを試みた。

本研究ではまた、女性のライフコースの変容は、女性だけの問題ではないという立場をとり、女性の恋愛・割礼・結婚・出産といった事態をそのパートナーの男性をはじめとする社会全体のなかに位置づけ、また、学校教育の普及や、一夫多妻婚や子供の数の減少といった結婚・家族の形態の変容、生業基盤である牧畜業のあり方、未婚期の恋愛の形態の変容など、さまざまな社会変容の中に位置づけながら、地域研究の視点によって、女性のライフコースの変容動態を、複合的・総合的に解明することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 女性の新たなライフコースの創出過程の全体像を解明

新たなライフコースの選択を含むライフコースの変容動態を、女性の割礼、結婚、出産に関する網羅的な調査により実証的に解明した(網羅的調査対象:20代以上の女性180人、調査項目<名前、居住地域、生年、割礼時期、結婚時期、教育経験/職業、夫のクラン/年齢組、婚前の恋愛経験、結婚後の家族構成、出産回数と時期、離婚経験の有無と時期、未亡人であれば夫が亡くなった時期など>)。

(2) 女性の新たなライフコースを社会変容全体との関連において解明

(1)の網羅的調査で得られたデータを、結婚・家族の形態、未婚期の恋愛の形態、教育レベル、牧畜業といった社会全体の変容との関連において分析した。教育を受けた若い世代の中には、従来はほとんどなかった恋愛結婚や一夫一妻を志向するものや、子供の数を制限しようとするものが登場している。また、学校教育を受けた女性は牧畜業に参与せずに賃労働に就こうとする。こうした傾向を分析した。

(3) 女性のライフコースの変容と男性のライフコースの変容の相互関係の解明

サンプルの男性は、所属する年齢組ごとに決められた時期に集団的に割礼と結婚をしてきたが、近年、この規範を逸脱して、個別に割礼と結婚の時期を選択する人びとが増え、そのライフコースも多様化している。男性のライフコースの変容過程を(1)(2)の結果と統合して分析することにより、男女のライフコースの変容をその相互関係の中で考察した。

4. 研究成果

(1) スルメレイ(既割礼・未婚)という年齢範疇を選択する人の増加

「伝統的」なサンプルの規範では、女性の人生は結婚と同時に受ける割礼により、「未婚=出産できない」「既婚=出産できる」に二分される。しかし、近年では結婚以前に割礼を受けて、未婚のうちに出産できる状態(「スルメレイ」)を獲得する女性が増加していることが実証的に明らかになった。40年前にはごく例外であったスルメレイだが、現在では80%以上の人々がこれを経験していた。また、スルメレイになるという選択と学校教育の有無は密接に関係しており、学校教育を受けている女性はほぼ例外なくスルメレイになっていた。例外的であった年齢範疇が、ほんの30年のあいだに主流となったのであるが、この変化は、サンプル女性のライフコースのさまざまな変化と密接に関係しており、ライフコース多様化の背景として重要な意味をもっていると考えられる。

(2) 未婚期の恋愛形態の変化と学校教育

スルメレイの増加と同時に起こっている重要な事象として、サンプルの未婚の男女の恋愛形態の変化があった。かつてサンプルの若者は、先行研究(Spencer 1960)では「クラブ」とよばれる同じクランの同一地域集団のものたちがつくるゆるやかなまとまりのなかで、ともにダンスを楽しみ、ビーズの授受を介した恋人関係(以下「ビーズの恋人関係」)を結んできた。クランはサンプルにおいて外婚単位であり、この恋人関係は結婚に結びつくことはなかった。

現在ではこの関係を結ぶ人が急激に減少し、ほぼ消滅に近い状態になっていた。ビーズの恋人関係は、娘が割礼を受けると(たとえ結婚が決まる前でも)規範上は終焉をむかえる。サンプルの未婚の男女がつくっている「クラブ」というまとまりは、ダンス、身体装飾、恋愛を独占した独特の華やかさをもっており、社会の他の年齢範疇に属する人びと(長老、少年、既婚女性)に対しては、一種排他的な雰囲気をもってきた。割礼を受けてスルメレイになることは、クラブからの「卒業」を意味してきたため、従来は、積極的にスルメレイになろうとする娘はいなかった。しかし、学校に通う娘は、もともとビーズを身につけずに洋服を着て過ごしており、「クラブ」のダンスには参加せず、ビーズの恋人関係を結ぶこともなかった。このため、学校に通う娘たちは、割礼を受けてスルメレイになることに特に抵抗がなかったと考えられる。

また、近年では、急速に普及する学校教育を背景に若者たちが恋人を選ぶ場がクラブから学校に変化している。クラブは同一クランのものたちの集まりであったが、学校はクランを越えた人びとが雑多に集まっている場であり、恋愛の相手が他のクランの人であ

ることが普通のこととなっている。このことは、サンプルでは珍しかった恋愛結婚の増加につながっていた。

(3) 未婚の母の増加

サンプルでは、割礼前の女性が身ごもった子供は「ンゴセネット」とよばれ、不吉な存在であると考えられてきた。女性の割礼は結婚と同時に行われてきたため、未婚期の妊娠に対しては必ず中絶が試みられ、出産は厳しく禁じられてきた。しかし、スルメレイはすでに割礼をすませており、未婚期にありながら出産をゆるされた存在である。多くのスルメレイが、未婚の状態での妊娠を経験していたが、彼女らは妊娠への対処として、中絶ではなく出産を選択することのほうが圧倒的に多かった。このことは、サンプル社会にかつて存在しえなかった未婚の母を数多く誕生させていた。

(4) 恋愛結婚の実現

サンプルでは、年齢体系にしたがって、それぞれの年齢範疇をあたかも生まれ変わったかのように鮮やかに「生き分ける」ことが「美しい生き方」と考えられてきた。こうした価値観のもとでは、未婚期と既婚期とのけじめが曖昧な「恋愛結婚」をする人は、「規範の逸脱者」としてネガティブにとらえられてきた。恋人と結婚しようとする人は、男性、女性ともに、未婚期の幼稚な意志を周囲の反対にもかかわらず押し通す頑固な「変わり者」であるし、「恋愛結婚はたいてい離婚に結びつく」ともよく言われてきた。

サンプルの結婚は、夫となる男性と妻となる女性の父親の交渉によって決定され、女性はみずからの結婚についてはなんの決定権ももっていなかった。娘はある日、父親に結婚を「宣告」されると、恋人と別れ、割礼を受けて結婚してきた。

しかし、未婚の母となり、父母の集落で子供を産んで育てているスルメレイは、こうした慣例の例外に位置づけられている。スルメレイの婚資は通常より少ないにも関わらず、子連れで結婚したいと考えているスルメレイにとっては、結婚相手はみづかりにくい。しかしながら彼女たちはこの「悪い条件」を逆手にとって、結婚相手を主体的に探すことを試みており、結果的に恋愛結婚に近い形の結婚をしていることが多かった。

また、スルメレイの恋愛結婚は、形式上は「連れ去り婚」(婚資をもたないが結婚をよく望んでいる男性が、スルメレイをなかば無理やりに連れ去り一緒に住み始めることによって、まず既成事実をつくり、その後、ゆっくり婚資をしはらっていく結婚の形式)という従来から存在している例外的な結婚の形を利用しながら実現されていた。

(5) 生涯独身という生き方

サンプルでは、未婚のまま、自分の子供を

割礼させることは男女ともゆるされていない。結婚は、リコレットとよばれる婚資のウシを屠ることで正式に認められる。また、「模擬通過儀礼」とは、本来行うべき儀礼を実施していななかった人のために、その「まねごと」を代理をたてて行うことによって、その人の儀礼的・社会的な地位を変化させるものである。これを利用して、未婚女性が既婚のステイタスを獲得し、子供を割礼するというサンプルの人びともこれまで経験したことがない新しい形の結婚事例が2件みられた。この女性たちが、生涯独身をつらぬくかどうかは、まだわからないが、彼女たちは、自分の娘が結婚に際しては、その婚資の交渉を行い、婚資を受け取る父親の役割も同時に果たしていくと見られている。

(6) 総括

サンプルの人びとは、既存の規範・価値観のなかで例外的な処理を積み重ねるという方法で、未婚の母、恋愛結婚、模擬通過儀礼による父親的な立場の獲得、など、新しく多様なライフコースの創出を可能にしていることが明らかになった。またこのような女性のライフコースの多様化は、未婚期の男女の生活基盤がクラブから学校へと変化したことによるクラブというまとまりの弱体化、それとともに起きている恋愛の変化(クラン内部の恋愛からクラン外部に広がる結婚可能な相手との恋愛)、恋愛結婚に対する価値観の変化、また、クラブの弱体化に伴う男性の結婚年齢の低下(モラン期に規範に反して結婚する傾向)といった男性のライフコースの変容と密接に関連しながら同時に起きていた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 5 件)

1. 中村香子、「サンプル女性のライフコースの多様化 Njartim (恋愛結婚)という選択」日本アフリカ学会第52回学術大会(犬山国際観光センター“フロイデ”)2015年5月23日(土)・24日(日)
2. Kyoko Nakamura, “Involvement in tourism and bodily changes: Long braided hair and beaded neck of the pastoral Samburu,” XVIII International Sociological Association, ISA (国際社会学会), World Congress of Sociology, Yokohama, Japan 13-19, July 2014.
3. Kyoko Nakamura, “Emerging options for female circumcision (FC) or female genital mutilation/cutting (FGM/C) among Kenyan Samburu pastoralists,” The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) Inter-Congress

2014・日本文化人類学会第50周年記念学術大会合同学会, Makuhari Messe, Chiba, Japan, May 15—18, 2014.

4. 中村香子、「多様化するサンプル女性のライフコース—割礼・結婚・出産に注目して—」日本アフリカ学会第50回学術大会(東京大学)2013年5月25日(土)・26日(日)
5. Kyoko Nakamura, “Alternative life courses among Samburu women: Changes in circumcision, marriage, and childbearing,” African Studies Association, ASA (アメリカ・アフリカ学会), 56th Annual Meeting, Baltimore November 21-24, 2011.

[図書](計 3 件)

1. 中村香子、「旅する『モラン』と赤い布〜ケニア、マサイ系牧畜民・サンプルの地にて」『衣食住からの発見 (FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ 11)』古今書店, pp. 83-87.
2. 中村香子、「マサイ語で『雨』は『神』 - 牧畜という生き方」津田みわ・松田素二(編)『ケニアを知るための55章』、明石書店, pp. 245-253.
3. 中村香子、「『伝統衣装』のパラドクス」津田みわ・松田素二(編)『ケニアを知るための55章』、明石書店, pp. 298-300.

[その他]

招待講演

1. 中村香子、「『伝統衣装』をまとめてあゆむ『グローバルゼーション』の道すじ - ケニアの牧畜民サンプルの『戦士』とビーズ装飾を事例に」AA研機関研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探究」2012年度第1回公開セミナー
2. 中村香子、「『伝統衣装』の歴史といま - 東アフリカのマサイとサンプルのビーズ装飾を事例に」広島市立大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 香子 (Nakamura Kyoko)

京都大学学際融合教育研究推進センター・研究員

研究者番号: 60467420

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし